

平成 22 年 2 月 12 日

各 位

会 社 名 黒川木徳フィナンシャルホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 間 瀬 博 行
(コード 8737 大証第2部)
問合せ先 執行役員管理副本部長兼IR・広報部長兼財務副本部長 川中 雅浩
(TEL 03-6821-0606)

平成22年3月期第3四半期業績と前年同四半期業績との 差異に関するお知らせ

平成 22 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日）の業績が、前期の平成 21 年 3 月期第 3 四半期連結累計期間（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）の業績に対して、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 3 月期第 3 四半期業績と前年同四半期業績との差異

(単位：百万円、%)

	営業収益	純営業 収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成 21 年 3 月期第 3 四 半期連結累計期間 (A)	702	666	△1,552	△1,325	△1,406	△41円70銭
平成 22 年 3 月期第 3 四 半期連結累計期間 (B)	2,543	2,498	△98	108	68	2円03銭
増減額 (B-A)	1,841	1,831	1,454	1,433	1,474	43円73銭
増減率 (%)	262.3	274.7	—	—	—	—

2. 差異が生じた理由

当第 3 四半期連結累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日）における我が国経済は、海外経済の改善や国内経済対策の効果等により、景気指標の一部に持ち直しの兆しがみられましたが、下期以降の円高・株価下落、デフレ局面などを背景とした企業業績への懸念、雇用環境の厳しさが続くなど、依然として景気の先行きは不透明な状態が続いております。

このような環境の中、株式市場におきましては、10 月下旬以降は政権運営に対する不安感や急速な円高進行による企業収益悪化の懸念などにより調整局面となり、11 月下旬には日経平均株価が 9,000 円台まで下落しましたが、経済対策の効果を反映し市場心理が好転するなどおおむね堅調に推移いたしました。

株式市場がおおむね堅調に推移していることを受け、第 3 四半期連結累計期間の受入手数料は 2,158 百万円（前年同四半期比 93.9%増）と増加し、営業収益は 2,543 万円（前年同四半期比 262.3%増）となりました。営業収益の増加に伴い、子会社である黒川木徳証券株式会社単体では営業黒字であったものの、グループ全体の販売管理費を賄うことができず、営業損失 98 百万円となりました。

また、所有不動産の減損損失（73 百万円）を計上いたしましたが、負ののれん償却や貸付金の回収可能性が向上したことによる貸倒引当金戻入（100 百万円）の計上により、経常利益は 108 百万円（前年同四半期は経常損失 1,325 百万円）、当四半期純利益は 68 百万円（前年同四半期は純損失 1,406 百万円）となり、前年同四半期と比較し業績が改善いたしました。

以 上